

第13回 公衆衛生・公衆栄養分野における管理栄養士活動を考える会



# 10年後を見据えた 新しい自治体栄養士養成プログラムの 概要と試行状況

本自由集会は、  
「厚生労働科学研究 公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究」  
と連動・連携して開催

# 厚生労働科学研究

## 公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム 開発のための研究班

赤堀	摩弥	(静岡県健康福祉部健康局) ※
荒井	裕介	(千葉県立保健医療大学) *
飯田	綾香	(神奈川県立保健福祉大学) ※
磯部	澄枝	(新潟県新潟地域振興局健康福祉部) ※
岡本	理恵	(金沢大学) *
串田	修	(静岡県立大学) *
小山	達也	(青森県立保健大学) *
澁谷	いづみ	(愛知県瀬戸保健所) *
田中	和美	(神奈川県立保健福祉大学) *
諸岡	歩	(兵庫県健康福祉部健康局) ※
由田	克士	(大阪公立大学) #

#: 研究代表者

\*: 分担研究者

※: 研究協力者

(敬称略)

# これまでの取り組み状況

## 2020（令和2）年度

- 主要保健関連職種のキャリアラダー等に基づく人材育成プログラム及び自治体栄養士の人材育成プログラムに関するレビュー
- 第79回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム 自由集会 の開催
- 行政栄養士人材育成に関する実態調査（都道府県・保健所設置市・特別区に対する組織調査）
- 都道府県・保健所設置市・特別区に勤務する行政栄養士個人を対象とした調査
- 市町村（保健所設置市を除く）に勤務する行政栄養士個人を対象とした調査

# これまでの取り組み状況

## 2021（令和3）年度

- 2020年度実施分各種調査結果報告会・情報共有ならびに意見交換会
- 研究班独自のホームページ等による情報発信
- 2020年度実施済み調査データを基にした検討・追加解析
- 自治体栄養士がスキルアップするために身につけたおくことが望まれる内容に関するブレインストーミング
- これまでの調査・検討から勘案した10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラムのアウトラインの整理
- 第80回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム 自由集会 の開催

# これまでの取り組み状況

## 2022（令和4）年度

- 新しい自治体栄養士養成プログラムの具体化
- 研究班による試行研修会の開催（9月12日、静岡県）
- 研究班による試行研修会の開催（9月21日、兵庫県）
- 第81回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム 自由集会の開催（本日）

# 新たな研修プログラムのアウトライン

## 全体を対象として新たな取り組む内容

- 自己肯定感（ありのままの自分を肯定する感覚）を高める研修プログラム
- 自己効力感（セルフ・エフィカシー）を持てるようにするための研修プログラム

## 新任期

- ニーズに応じた専門能力・地域支援力を高める研修プログラムの充実

## 中堅期

- 目指す将来の方向性（スペシャリスト or ゼネラリスト）と職位に関するニーズに応じた研修プログラム

## リーダー期

- 運営能力を高めるニーズに応じた研修プログラム

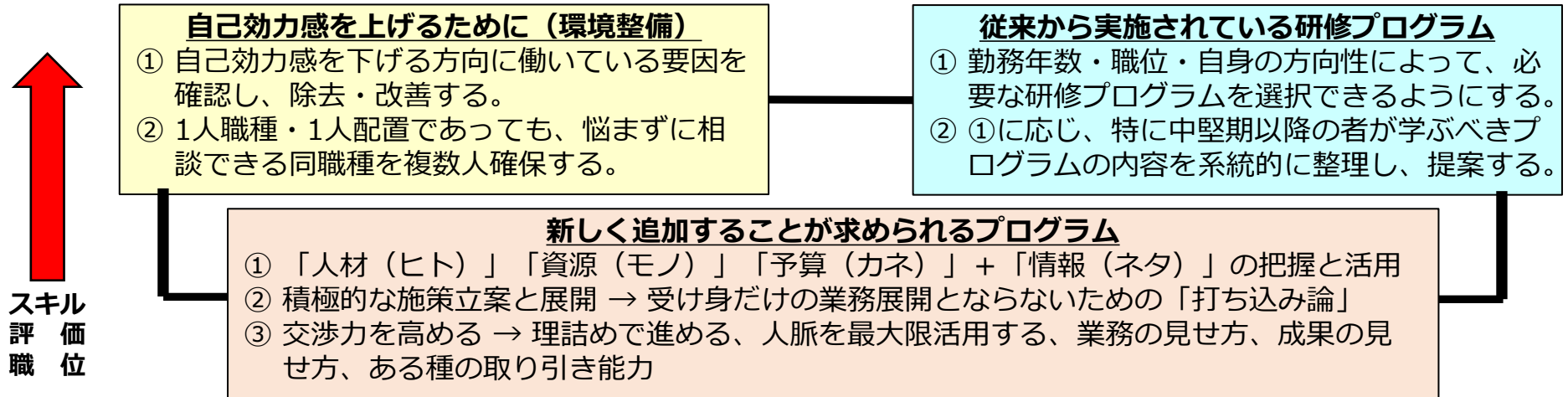
いわゆる「人・モノ・お金」+「情報」を適切にコントロールする。

他職種、他部署、他組織へ打ち込める力量の形成

**目的：**10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラムのアウトラインを構築する。

**方法：**本研究班がこれまでに実施した自治体管理栄養士に対する調査結果の要点は次のとおりである。

- 1) 自治体栄養士の多くは、常に自身の業務に自信が持てず、疑問や問題点等を誰に相談し、解決すれば良いのかが分からず、将来に不安を持って勤務している（自己効力感が低い）。
  - 2) 現状の自治体管理栄養士養成プログラムは、自治体間において相応の違いが認められる。
  - 3) 中堅期以降のプログラムは明確な目的や方向性を持って系統的に実施している自治体が限られる。
- これらの結果を踏まえ、ブレインストーミング、意見交換、先行で実施されている事例、他職種の状況等を踏まえ、整理・検討を行った。



**結果・結論：**従来から実施されている研修プログラムと、この度本研究班が提案する新たなプログラムを有機的に組み合わせた内容の具体化とその試行が必要である。また、個々の自治体栄養士が努力し研鑽を積んだことが、誰からも客観的に評価される仕組みの構築も行わなくてはならない。

さらに、関連の職能団体、学術団体、自治体、大学、行政機関等との役割分担を調整し、継続的な取り組みとなるようにしなければならない。

# 研究班の調査で得られた問題点を導入と総括・まとめで対応し、 既存のカリキュラムを選択しサンドイッチする

## 中身 (具)

既存の内容  
を選択する

研究班が提案する総括・まとめのカリキュラム

国立保健医療科学院が提供しているカリキュラム

(公社)日本栄養士会が提供しているカリキュラム

都道府県栄養士会が提供しているカリキュラム

全国保健所管理栄養士会が提供しているカリキュラム

自治体独自のカリキュラム

栄養系・医療系大学院が提供するカリキュラム

関連団体等が提供するカリキュラム

研究班が提案する導入のカリキュラム

← 食パン

試行プログラム

試行プログラム

← 食パン



# 令和4年度 静岡県地域保健従事者研修会（中堅期栄養士） （自治体栄養士養成プログラム開発のための研究班試行研修会を兼ねる）

開催日：令和4年9月12日（月）

メインターゲット：中堅期後半（勤務年数の目安：15年以上）

テーマ：中堅期以降の自治体栄養士を対象としたリーダーシップ論と組織論

講義1「行政栄養士の人材育成について」・研究班で分かったこと、中堅期の役割、中堅期以降で身につけておきたいことなど

講義2「行政栄養士の戦略の立て方」

(1)栄養の主流化に向けた「戦略的仕掛け」の実際・・・塩澤補佐

(2)厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方・・・森川主査

講義3「組織と仕事の進め方」と演習1「課題の明確化と交渉力」

- ・組織論
- ・行政栄養士の業務と人材育成をどう考えるか
- ・誰に何を伝える必要があるか

演習2「①組織の中での栄養士、②人材育成について」（グループワーク）

- ・（1人配置・複数配置別に）講義を聞いてどう思ったか 不安、課題の共有と対応方法
- ・後輩の育成と人材育成の体制整備（近隣市町での体制づくり）できること探し

講評「まとめと励まし」・・・講師及びスタッフ

# 令和4年度 兵庫県行政栄養士研修（第1回栄養指導員資質向上研修） （自治体栄養士養成プログラム開発のための研究班試行研修会を兼ねる）

開催日：令和4年9月21日（水）

1. 説明「兵庫県における人材育成の考え方について」（10:35～10:45／10分）
2. 講演「新しい自治体栄養士養成プログラム～経験年数に応じて身につけたいこと～」（10:45～11:15／40分）
3. グループワーク①「日頃の業務で困っていること」（11:15～12:15／60分）
4. グループワーク②「今までの振り返り」（13:15～14:25／70分）
5. 講演「目指す姿に到達するためのキャリアプランの描き方を考える」（14:25～15:10／45分）
6. グループワーク③「今後どのような働き方をしたいか」（15:10～16:20／70分）
7. 励ましとまとめ（16:20～16:30／10分）

→アンケート記入

## 演者

- ◆ 磯部 澄枝 先生（新潟県南魚沼域振興局健康福祉環境部（新潟県南魚沼保健所））
- ◆ 田中 和美 先生（神奈川県立保健福祉大学栄養学科）
- ◆ 諸岡 歩 先生（兵庫県保健医療部健康増進課）

## 指定発言

- ◆ 塩澤 信良 先生（厚生労働省健康局健康課栄養指導室）
- ◆ 森川 渚 先生（厚生労働省健康局健康課栄養指導室）

## 進行

- ◆ 由田 克士（大阪公立大学大学院生活科学研究科食栄養学分野公衆栄養学）